

ステークホルダーの皆さまへ



2008年3月期は、売上高9,061億円、営業利益1,685億円、当期純利益1,063億円といずれも過去最高の業績を達成することができました。会社全体として将来に対する成長基盤が確実に強化されてきたと考えています。株主の皆さまへの配当に関しましても、前期比22円増の1株当たり125円の過去最高の配当を行うことができました。あらためて皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後の市場動向に目を転じますと、当社の属しているIT市場は調整期に入り、厳しい環境が続いていますが、2009年以降は再び回復し、成長に転じると予測されています。

このような環境下におきまして、当社としては将来の成長の源泉となる研究開発の強化と会社の体質の改善に努めておりますが、さらに当社の中長期にわたる成長を期して、新成長戦略の検討に着手しています。以下にその主旨をご紹介しますのでご高覧お願い申し上げます。当社は今後とも「革新」「成長」「環境」をキーワードに、全社一丸となって夢と活力に満ちた会社づくりに邁進してまいりますので、ご支援の程お願い申し上げます。

東京エレクトロン新成長戦略主旨

東京エレクトロンが参画しているエレクトロニクス産業、とりわけ情報・通信技術分野は、医療・教育・金融・自動車・航空・宇宙・安全・環境などの今後大きな成長が期待できる諸産業の中核技術として、世界的にその重要性がますます高まっています。東京エレクトロンが取り扱う製品は、いずれもこれらの産業の基盤を形成するコア技術であり、技術革新とともに産業と技術の発展に大きく貢献してきました。また今後は、この

「革新」と「成長」により、さらなる 企業価値の向上を目指します

代表取締役会長 東 哲郎

分野自体の技術革新とともに、隣接する技術領域であるナノテクノロジー、バイオテクノロジー、MEMSテクノロジーなどと融合する新しい技術革新を通じてさらなる成長が期待できます。東京エレクトロンは、当社の基軸としている既存の製品・技術およびこれに隣接する新技術分野・新ビジネス分野において、日々挑戦し続け、「革新」と「成長」により世界的な規模でリーダーシップをとることをここに新たに決意いたします。

他方、技術の発展は、人類の生活の質的向上に貢献する反面、生活の安全と環境に対して破壊的な力を持ち、このまま放置すれば、地球規模でのエネルギー資源の枯渇、地球環境の破壊などがきわめて早いスピードで進むことが予想されています。東京エレクトロンは、地球規模で進む環境負荷問題および私たちの技術分野に内在する環境負荷に関わる問題を解決することが当社の重要な使命の一つであることを自覚し、人類の健全な発展に貢献してまいります。

今後の東京エレクトロンの成長にご期待いただき、引き続き、皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 東 哲郎